

事後評価書

箇所名	中野谷川		事業名	砂防事業	課名	防災砂防課																										
事業概要	工期 (下段当初)	平成12年度～平成22年度	全体事業費 (下段当初)	950百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
		平成12年度～平成16年度		750百万円 (負担区分: 国 1/2、県 1/2)																												
事業目的及び内容		<p>①場所 三重県南牟婁郡紀宝町浅里地内</p> <p>②事業目的 本事業は、中野谷川において砂防堰堤を設置して土石流による災害を未然に防ぐことを目的とした。</p> <p>③被害想定 崩壊地や溪床からの土砂生産による土石流氾濫被害を想定した。</p> <p>④保全対象 紀南病院浅里診療所(災害時要援護者関連施設)、旧浅里中学校(集会所・洪水時の避難場所)、人家2戸、県道小舟紀宝線 200m、林道桐谷浅里線 400m、水田 1.3ha。</p> <p>⑤事業内容、事業量 砂防堰堤工: 1基、垂直壁: 3基、溪流保全工: 165m</p>																														
1・事業の効果		<p>① 対策後の流域の状況 事業完了後の平成23年7月には最大日雨量 202mm(観測日 7/19)、総雨量 279.5mm(観測期間 7/18～7/22)、同年9月の台風12号時には最大日雨量 418.5mm(観測日 9/4)、総雨量 832.5mm(観測期間 8/30～9/5)等の降雨があったが、土石流による保全対象への被害は無かった。</p> <p>②費用対効果</p> <table border="1" data-bbox="245 1218 1353 1469"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>当初</th> <th>今回評価時</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>建設費</td> <td rowspan="3">分析は行って いません。</td> <td>13.59億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13.59億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>総便益</td> <td></td> <td>15.88億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益分析結果(B/C)</td> <td></td> <td>1.17</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ ②以外のその他の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■山地森林被害抑止効果: 溪流空間を保全する効果が見込まれる。 ■交通途絶による迂回損失の防止効果: 土砂流出が原因となる交通途絶による迂回損失防止効果が見込まれる。 ■波及的効果: 人家の安全性が向上し、生活する地域住民の不安感が軽減される。 					区分		当初	今回評価時	備考	費用	建設費	分析は行って いません。	13.59億円		維持管理費	0円		合計	13.59億円		効果	総便益		15.88億円		費用便益分析結果(B/C)			1.17	
区分		当初	今回評価時	備考																												
費用	建設費	分析は行って いません。	13.59億円																													
	維持管理費		0円																													
	合計		13.59億円																													
効果	総便益		15.88億円																													
費用便益分析結果(B/C)			1.17																													
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>(1)環境への配慮と実施後の状況 生態系等の環境への影響を抑えるために溪流保全工で植生が繁茂しやすいブロックを採用した。</p> <p>(2)景観に対する配慮と実施後の状況 景観に配慮して溪流保全工の底張りに自然石を活用した。</p>																														

3 ・事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、避難困難者が増加する。 ・近年日本各地で発生している土砂災害と降雨量の関係を見ると、一年に発生する土砂災害発生件数と1時間当たりの降雨量が50mmを超える回数が増加傾向にあり、土石流・立木災害が発生する危険性が高くなっている。
4 ・県民の意見	<p>①県民の意見の収集方法 対象者：紀宝町浅里地区周辺の住民 調査方法：アンケート方式 調査数：32件 有効回答数：29件 (回収率：90%)</p> <p>② アンケートの目的 中野谷川での事業実施による安心感の向上効果の把握</p> <p>③アンケート結果</p> <p>a) 土石流対策の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 62%が家の近くに土石流危険渓流があることを知っていると回答している。 ・ 76%が中野谷川で土石流対策工事を行っていることを知っていると回答している。 ・ 45%が中野谷川が土石流危険渓流であることを知っていると回答している。 ・ 83%が住んでいる地区の避難場所を知っていると回答している。 <p>b) 土石流対策を実施したことによる安心感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 53%が砂防堰堤の工事により安心して暮らせるようになったと回答しており、27%があまりそうは思わない、思わないと回答している。 ・ あまりそうは思わない、思わないと回答した理由のうち64%が工事の効果が分かりにくいからと回答している。 <p>c) 今後の土砂災害対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 93%が土砂崩れなどの災害に対して不安を感じると回答している。 ・ 90%が土砂崩れなどの災害を防ぐ工事を今後も望むと回答している。 ・ 66%がハード対策とソフト対策を並行して進めるべきであると回答している。
5 ・再評価の経緯	再評価は実施していない。
6 ・今後の課題等	<p>住民アンケートの結果、住民が土砂災害に不安を感じていること、県の実施している土砂災害対策事業に対するニーズが高いことがわかった。よって、今後も砂防施設の整備を進めていく必要があると考えられる。</p> <p>一方で、工事の効果がわかりづらいとの意見があることから、今後は事業着手前の事業効果の説明方法について工夫をしていく必要があると考えられる。また、危険箇所や避難場所がわからないとの意見があることから、ソフト対策として、市町の防災対策部局と連携し、住民自らが危険箇所の把握や避難態勢の準備など日頃から取り組めるように支援していくことも重要であると考えられる。</p>

事業内容・位置図

